

離れたからこそわかる西ノ島の好きなど、現在の暮らしのことなど、さまざまなことをお話ししていただきました。
年齢・住まい・職業の異なる5名の方を隔月でご紹介予定です。

たくさんの人に応援してもらった学生プロジェクト。
人とのつながりを大切にデザイナーとして活躍したい。



Profile

2001年生まれ。京都芸術大学情報デザイン学科4年生。2021年5月、大学の友人らでユニット「ねねね」を結成し、出雲市にアートスペースを作るプロジェクトに携わる。まんがが好き。京都市在住。

大学で学んだデザインのこと

小さい頃から絵を描くことが好きだったので、中学生の頃からなんとなく将来は芸術大学に行きたいなと思っていました。でも、島にはデザインの勉強ができる場所がなかったので自然にあきらめてしまっていました。隠岐高校に進学した後も、卒業後の進路については芸術ではなく県立大に進んで栄養士の資格を取ろうと考えていました。気持ちが変わったのは受験の直前で、たまたま芸術大学に在学していた年上のいとこの話を聞く機会がありだんだんと影響を受けてきて、やっぱり私も芸術大学に進学したいという思いが強まって、子どもの頃からの望みを叶える道へ進むことを決断したんです。京都芸術大学の情報デザイン学科に進学して、グラフィックデザインやWEBデザインなどの勉強をしました。本が好きなので、書籍の装丁デザインや紙面のエディトリアルデザインが一番好きで楽しいです。デザインの勉強をしていくなかで、

大学3年生だった2021年の春に、大学で知り合った島根県出身の友人2人に誘われて出雲市にアートスペースを作るプロジェクトを始めました。きっかけは、友人が「祖母の空き家をなんとかしたい」という思いがあって、そこから「アートのふれる機会の少ない島根でいろんなアーティストの作品を展示できる場所を作りたい」という目標が定まっていきました。私はシンプルに空き家の改修っておもしろそうだな、と興味を持って参加したんです。思ったよりも建物が老朽化している資金が想定以上に必要になりました。「もう無理かもしれない」と3人で川べりに座って話し合ったこともありました。それでも、資金面はクラウドファンディングに挑戦することにになり、結果的にたくさんの方に応援していただいて、2022年の10月に不定期営業のアートスペースを無事にオープンすることができました。大変なこともたくさんありましたが、振り返ってみると充実し

デザインって魅力を引き出すことができるツールだなと思うようになりました。もともと備わっている魅力をデザインの力で引き出して世の中に広めていく。これからもそういったデザインの仕事に関わっていったら嬉しいです。

出雲の古民家をアートスペースに

デザインって魅力を引き出すことができるツールだなと思うようになりました。もともと備わっている魅力をデザインの力で引き出して世の中に広めていく。これからもそういったデザインの仕事に関わっていったら嬉しいです。

離れてから気づく西ノ島の魅力

西ノ島へ帰省すると周りのみんなが挨拶してくれることが新鮮で嬉しいです。本土で暮らしていると道行く人と声をかけ合う機会は少ないです。西ノ島ではお店に行っても、「なつちゃん、よく帰ってきたね」と声をかけてもらったり、私が知らないことも私のことを知ってくれてくれる大人の人たちが話しかけてくれます。通りすがりの中学生も元気に挨拶をしてくれるのでいつもあたたかい気持ちになります。

企画もできるデザイナーに

今は卒業制作を仕上げることをがんばっています。春には大学を卒業して大阪のデザイン会社でデザイナーとして就職します。不安もありますが、楽しみな気持ちのほうが大きいです。アートスペースを作るプロジェクトでたくさんの人と出会えたように、これからも人脈を広げて、企画もできるデザイナーを目指しています。



教室での制作作業中。パソコンを使用し制作することが多いです。



卒業制作の途中段階。「記憶」をテーマに制作しています。

Q. 西ノ島で好きな場所は？

浦ノ谷にある通称「年金波止」には帰省するたびに出かけています。海を見ながらボーっとする時間が好きです。

Humans of Nishinoshima

こんにちは、島留学生の吉谷優花です。
新年、あけましておめでとうございます。
皆さん、今年はどんな一年にしたいですか？
西ノ島の人を特集する「Humans of Nishinoshima」
今回は、好きなことを楽しむお二人特集です♪



先日、実家の猫に
会いました。
6キ口超です(笑)



Blog
記事の続きは
こちらから。



Instagram
町の人の写真は
こちらから。

他の記事も連載中です。「西ノ島町公式note」
で検索してみてください

西ノ島町公式note



吉谷弘美 (よしたにひろみ) さん 西ノ島町出身
Sewing Hiromi (ソーイングヒロミ) 店長
幼い頃から裁縫が好きで、中学卒業後専門学校で学ぶ

島唯一の裁縫屋さん -SewingHiromi-

浦郷地区の道沿いに、パステルグリーンの縁に「Sewing Hiromi」と書かれた看板があります。島唯一の裁縫屋さんです。

オーナーのひろみさんはお店をオープンして今年で約30年。地域の方に支えられてここまでこれたといいます。幼い頃から、ビーズや塗り絵などの細かい作業が好きな子どもだったそう。中学卒業後、松江の専門学校で裁縫を学び、島にUターン。島でゆったりと過ごしながら、大好きな手芸をしたり、子ども服を手作りしていたそうです。本人は遊んでいただけと言っていましたが(笑)。

島では、洋服を取り扱うお店が限られている為、お下がりをリメイクしたり、気に入ったものをお直しして長く着る方も多いんだとか。そんなお客様の為に、今日もひろみさんはミシンを動かします。「当たり前だけど、ミシンで作業する時間が一番楽しいよ、好きな音楽を聴きながらやるとう最高。最近は Kiroro をずっと聴いている。それに、難しいお直しが仕上がった時、達成感があるの。誰も褒めてくれる人はいないから、自分で自分を褒めるんだけどね(笑)。」笑顔で仕事の楽しさをお話してくれました。

好きなことを仕事にしているひろみさん。特別に聞こえますが、それはひろみさんにとっての日常。仕事に行くまでの近所の方との会話や、休日の過ごし方、最近ハマっている歌など、ゆったりとした日常を覗くことができました。何かリメイク、お直ししたい方、是非、お店に遊びにいらしてみてくださいね。

さんげつあん 楽しくて仕方なかった「山月庵」づくり

市部地区に、手作りのセカンドハウス「山月庵」があります。緑いっぱいの庭をくぐり抜け玄関を開けると、生花や木で出来たオブジェ、地元の方が連載された新聞の切り抜きが手作りの額縁に入れられ、丁寧に飾ってあります。

こちらのお家をつくったのは川井さん。56歳の時に、約一年かけて、山月庵を一から、自分ひとりで作りました。当時はまだまき網漁船で働いていたというのだから驚きです。朝、漁から帰り、そのまま家づくり、少し寝てまた漁に行くという日々を送っていたそう。「現役の時に家づくりを始めたけど、楽しくて楽しくて、全然苦じゃなかったわ、しんどいと思ったことは一度もなかった！いや～ほんと楽しかったなあ。」楽しいというワードを連発する川井さん、当時の話をすると止まりません。人は、好きなことを話す時こんなにもキラキラと輝くんですね。

山月庵では、囲炉裏を囲んで鍋をしたり、釣ってきた魚を焼いて食べたり、地域の方同士の交流が頻繁に行われています。それだけでなく、多趣味な川井さんは、一人で本を読んだり音楽を聞いたりもしているそうですよ。最近は烏骨鶏を飼い始めたんだとか。そんな川井さんを見て、私も何歳になっても、没頭できる趣味を見つけ、豊かな人生を送っていききたいな、と改めて思いました。



川井昭二 (かわいしょうじ) さん 西ノ島町出身
中学卒業後、商船、まき網漁船で働く
56歳の時に「山月庵」づくりを始める